

「いのち」の教育実践事例

☆寒河江市の実践

生命の継承の大切さに関する教育

－ 実践のテーマ－

寒河江市では、令和元年度より「さがえっこライフデザインセミナー事業」を実施している。この事業は、①未来の寒河江を担う「さがえっこ（小中学生）」に、将来の人生設計について働きかける、②結婚や子どもを産み育てる大切さ等について意識啓発を図ることを目的としている。

「かけがえのない命」の講話

寒河江市立陵南中学校 第3学年

- 生徒は、2学年時と3学年時の2回にわたり、思春期保健相談士の後藤啓子氏を講師に招いて、命の講演を聞いた。1回目は、命や家族・友達の大切さについて、2回目は、自分を好きになること、人生の選択について、模擬体験や事例をもとに学んだ。「特に心に残った言葉は、『自分のいいところが分からなかったら、誰かのためにできることを見つけてください』です。人を思いやれる自分になりたいです。」「私は、『自分を好きになる』という言葉に強く心を打たれました。また、苦しい時や挫折しそうになった時は、暗闇の中にある明るさをつかめるように自分を強くしていきたいと思います。」という感想をもった生徒もいた。

「働く、結婚、家庭について、どうしたい？」

ライフデザインを考えてみよう！」

寒河江市立陵西中学校 第3学年

- 株式会社ジョイン専務取締役の武田靖子氏による講演は、生徒にとってライフデザインを考える貴重な機会となった。ワークショップでは、「男性と女性の協働」、「パートナーに望むこと」について話し合い、その後、全体共有した。生徒は、講演やワークショップを通して、将来の仕事や家庭について見通しをもつこと、人と比べず自立した自己をもつことの重要性を感じることができた。

「西根っ子チャレンジワーク」

寒河江市立西根小学校

第6学年児童・保護者

- PTAの学年行事として、市内外で働く保護者や地域の人を講師に招き、職業講話や職業体験を行った。児童は、約20種類の職業ブースの中から5種類を選択。仕事内容ややりがいについての話を聞いたり、疑似体験をしたりしながら、自身の将来を考えることができた。学年行事として実施することで、子どもの成長を広く深く見守ろうと、保護者の意識も高まった。

今まで15年間生きてきたという自信を持ってください。そして、自分を好きになってください。



日常生活では、男女が協力して生活している。自分たちの家庭では、どのように役割を分担しているだろうか。



商業写真の撮影体験。フォトグラファー、アシスタント、モデルを分担しながら、撮影しあった。

